

第一工科大学キャンパスの バリアフリー計画に関する基礎的研究 その1 キャンパス内の実測調査

辻 潔

第一工科大学 工学部 建築デザイン学科(899-4395 鹿児島県霧島市国分中央 1-10-2)

Daiichi Institute of Technology campus Basic research on barrier-free planning Part 1 Actual measurement survey on campus

Kiyoshi TSUJI

1-10-2 Kokubuchuo, Kirishima City, Kagoshima Prefecture,899-4395,Japan

Abstract: This research is an accessible university located in Kirishima City, Kagoshima Prefecture, through the solution of various barriers, which is one of the issues on the Daiichi Institute of Technology campus. The purpose is to realize a university that can be freely used by people with disabilities, and as one of them, we will conduct an actual measurement survey on campus to understand the current situation. With the aim of reducing various obstacles at the university, we would like to proceed with basic research, devise a campus barrier-free plan unique to the university, and realize a comfortable campus.

Key word: Barrier-free、Actual measurement survey、University、Basic research

1. はじめに

第一工科大学校舎は1960～1970年頃竣工の歴史のあるキャンパスで、建物として大学関係者のもとより、地元の人たちにも愛されている。しかしそんな親しみのあるキャンパスも、時の

経過とともに、構造的、設備的に時代に合わなくなってきたと日頃の大学生活を通して感ずる。

特にキャンパス内を移動する場合に課題となるのが、水平移動と垂直移動である。現在、本

学には昇降機設備、スロープ等が不足している。

また当分野の研究もまだ十分に整備されているとは言えず、大学のバリアフリー化に対する取り組み状況も把握されていないのが現状である。²⁾

2. 目的

そこで、将来を見据えて、大学の様々な障害を減らすことを目的に、基礎的研究を進め、本学独自のキャンパスバリアフリー計画を考案し、快適なキャンパスを実現したいと考えている。

そして本研究は鹿児島県霧島市に位置する、第一工科大学キャンパスにおける課題の一つである、様々なバリアの解決を通して、アクセシビリティのある大学、障害を持った人々が自由に利用できる大学を実現することを目的とし、その1としてキャンパス内の実測調査を行い、現状の把握を行うこととする。

3. 既往研究

バリアフリーに関する既往研究としては、千葉工業大学の塚越らはバリアフリー環境を障害学生を含めたユニバーサルな環境づくりと考え、家具・設備等のハード面と、人的サポートによるソフト面の両面からその実態を明らかにし、改善を試みている。¹⁾

4. 実測調査概要

令和3年9月16日(木)、9月18日(土)の両日、鹿児島県霧島市国分中央1-10-2にあります、第一工科大学鹿児島キャンパスにおいて、以下に示す通り実測調査を行った。

調査方法は、障害と考えられる場所、部位の写真撮影。段差等の高さをメジャーで計測、記録し

ていった。調査担当人員は2名で行った。当日の気象状況は晴天でした。

5. 実測調査結果

障害と考えられる場所、部位の現調写真の中から、抜粋して写真-1から11を掲載する。

- (1) 現調写真より、まず本学の1階廻りは20～50cmの段差が存在し、この段差をクリアしなければ校舎の中へ入ることができない状態である。しかもこの状態の出入口が9割以上となっている。
- (2) 段差および階段状の出入口の形状的特徴は、2段～4段と複数段となっているものが多い。
- (3) 段差の高さの計測結果よりわかったことは、平均15～16cmの高さがあり、最高蹴上げ高さは25cmの場所も確認された。
- (4) また、段差の蹴上げ高さも同一ではないところもあり、健常者でもつまづく恐れのある場所も確認された。
- (5) 段差および階段状の出入口にスロープが併設されたか所は15か所中2か所(写真-2と写真-9)、だけだった。その2か所の内、1か所(写真-2)は木製の造作スロープで勾配もかなり急なもので、運搬用のスロープとして使用されているものであった。

6. まとめ

今回の実測調査より、第一工科大学のキャンパス内の通行の障害となる段差の程度、範囲、形状的特徴等把握することができた。今後の課題としては、学生、教職員の意識調査アンケートを実施し、本学の利用者がどういう事に、また、どういう時に不便を感じるか多角的に分析し、不特定多数のひとびとが利用する大学において本学独自の最適なバリアフリー計画の実現のための基礎的資料を得ていこうと考えている。



写真-1 1号館裏口



写真-3 2号館1階南側出入口



写真-2 1号館表入口

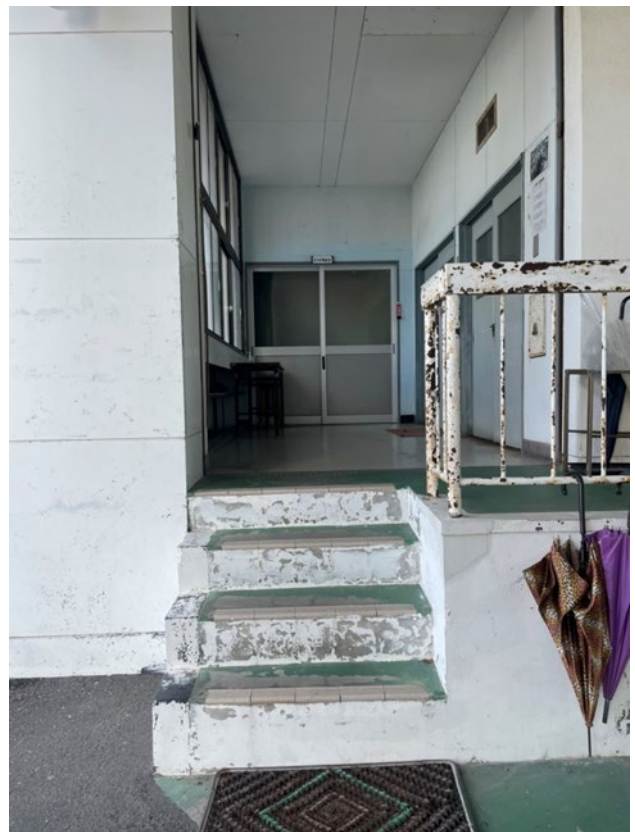


写真-4 2号館1階北側出入口



写真-5 4号館表出入口



写真-7 2号館1階女子便所



写真-6 4号館裏出入口



写真-8 4号館2階女子便所



写真-9 厚生会館1階屋外階段横



写真-11 渡り廊下(1号館と2号館の間)



写真-10 厚生会館1階屋外階段

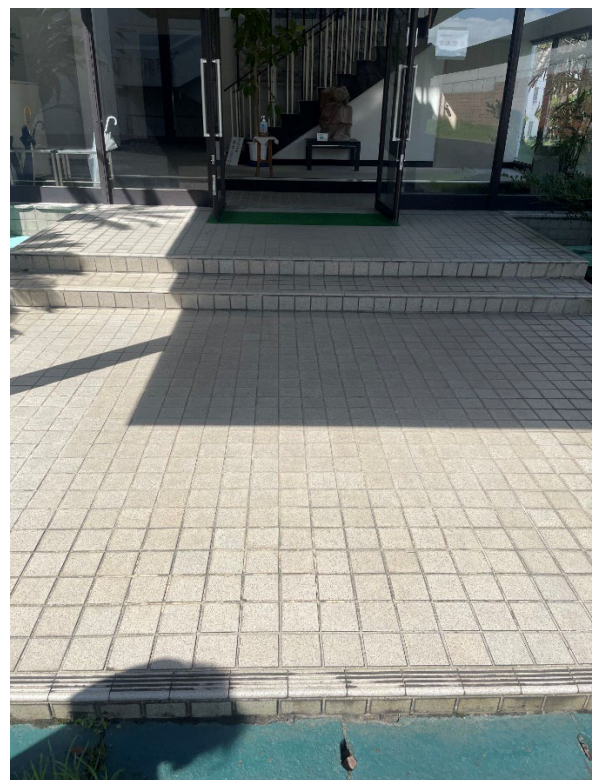


写真-12 9号館出入口



写真-13 9号館1階トイレ入口



写真-15 2号館女子トイレ



写真-14 4号館1階西側出入口

参考文献

- 1) 塚越理恵・上野義雪、5443 千葉工業大学におけるバリア・フリー環境の実態調査 その2、日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)2001年9月 pp885-886
- 2) 有賀絵理、茨城大学教育施設のバリアフリー改善案、茨城大学地域総合研究所年報, 2004年, No37, pp71-82

謝辞

本論文の作成にあたり、第一工科大学工学部建築デザイン学科令和3年度卒論生の仲間麻里亜さんに実測等ご協力頂いたことをここに感謝いたします。